

四月十日
大友色
正印

鑄素銅試驗報告之儀ニ付申進

昨年以來増工廠ニ於テ各種配合ノ鑄素銅ヲ試製致
 兵器材料ノ製作ニ供用スルニ至リテ鑄素銅ノ研究致
 矣。昨今漸ク好成績ヲ得ルニ到リ矣。實ニ近世ニ至リ鑄
 素ノ應用廣ク相成始ノハ精密器具ノ製作ニ之ヲ供用ス
 ルニ止リシカ再最近日々其應用ヲ増シ鋼銅等ノ諸金屬
 ヲ鑄製スルニ方リ鑄素ヲ混用シ精品ヲ得ルカ爲メ其効
 驗著大ナリキニテ銃砲ヲ試製シ好成績ヲ得タルアリ。右
 種ノ研究此ニ牧樂スルニ違フラス。千八百九十五年巴
 爾博覽會ノ時ニ於テ鑄素一吾元ノ價格三年八百三十
 五「フラン」ナリシカ昨年瑞西國「ナイハウセン」工場賣價ハ僅ニ
 同量ニ百六十「フラン」ニ至ナルニ過キス。價格低下ノ度實ニ驚



0306

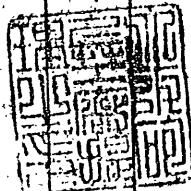
クハキノ外ナシ之ニ鑿素ノ需用最初單ニ美術品ニ止リ
 シカ降テ実用器具ノ製作ニ必用ノ材素ト成リ需用ノ數
 量廣大ト成リタルニ因テ此處價ナル材素ヲ用ヒ増工廠
 試驗ノ成績ニ因リ後來此種金屬ヲ以テ製成用ト供スル
 ト致美件ハ優等ノ兵器ヲ製シ得ルニ疑ヒナキトト譽存矣
 柳モ鑿素銅ノ青銅ヨリ優等ニシテ銅ニ類似ノ性質ヲ有
 シハ能ク製作ニ適スルハ世人ノ已ニ稱賛スル所ナリ然ルニ
 歐米諸國ニ於テ斷然之ヲ用ヒサルハ理ノ由テ存スル所アリ
 即チ銅ノ製法大ニ進歩シ而シテ銃砲皆チ銅ヲ以テ製シ軍
 國ノ需用ニ應ジ今ニシテ鑿素銅ヲ以テ之ニ代ルルハ社會ノ
 經濟ヲ錯乱スルト製法熟達ノ度銅ニ及ハサルノ恐レアリテ
 然ルナラシ然ル處亦却テ於テハ大ニ其形勢ヲ異ニ現用ハ能
 ハ多ク青銅ヲ以テ製シテ義ナレハ價工廠ニ於テ之ニ代ハ鑿

素鋼ヲフテ火脆ヲ鑄造スルノ殊ニ容易ノ事ニシテ他ニ弊
 害ヲ及サスレテ優等ノ火脆ヲ以テ軍備ヲ代換シ得ルノ利ヲ
 レハ決シテ歐米ニ於ケル如ク躊躇スヘキ事情無クモ
 試験ノ結局確ニ好成績ヲ得矣得ハ礮素鋼ヲ以テ火
 金属ト定メラル、一良策ト被相考矣ニ付試製トシテ火
 脆一門ヲ鑄造シ実験ニ供用致度尙研究ノ半途ニ有
 之矣得共試験ノ一般落ヲ了ヘ至間不取敢別紙試験
 成績ノ報告書相添此故申進矣也

報告書ハ当課ニ留置ス

砲兵事務課

三郎



大反色六八夜

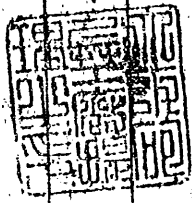
0308

0309

素鋼ヲ以テ火砲ヲ鑄造スルニ殊ニ容易ノ事ニシテ他ニ弊
 害ヲ及サスレテ優等ノ火砲ヲ以テ軍備ヲ代換シ得ルノ利
 レハ決シテ歐米ニ於ケル如ク躊躇スレキ事情無キ事歟
 試験ノ結局確ニ好成績ヲ得矣得ハ鑄造素鋼ヲ以テ火
 金屬ト定メラル、一良策ト被相考矣ニ付試製トシテ火
 砲一門ヲ鑄造シ案験ニ供用致廉價ノ研究ノ軍途ニ有
 之矣得共試験ノ一級落ヲ了レテ間不取敢別紙試験
 成績ノ報告書相添此段申進矣也

明治廿六年四月十一日

大坂砲兵工廠提理大田徳三郎



陸軍大臣伯爵大山巖殿

大坂砲兵工廠

0308
0309

